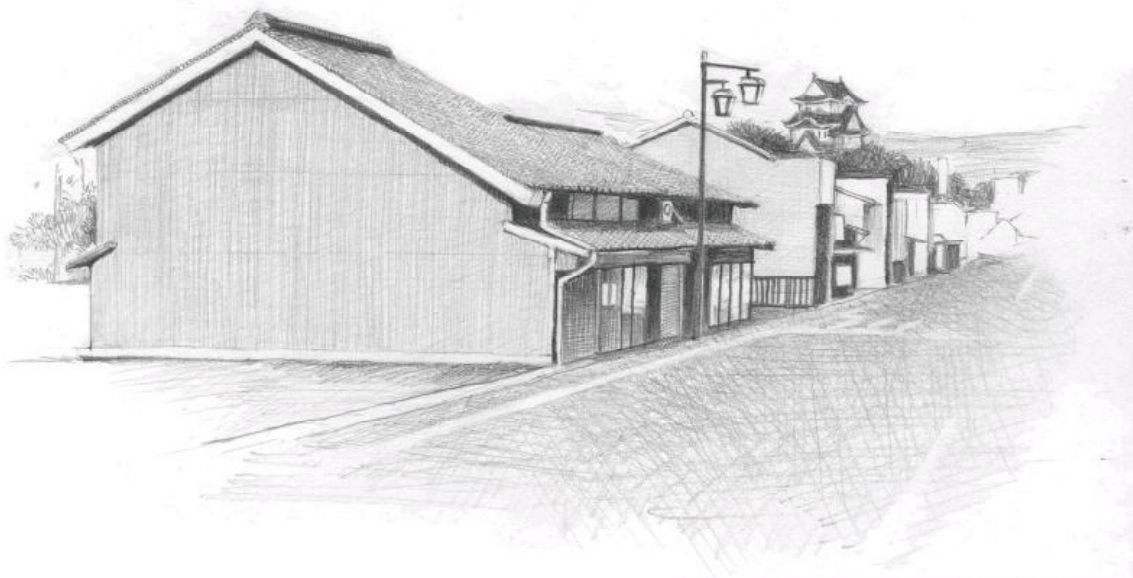


かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



初代の生まれ故郷と生家

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

表紙のことば

先月号で本席様の御来臨について書いたが、絵の説明の不足を指摘頂いた。掛け軸は「飛龍在天」右側にはお泊まりの時お使い頂いた布団、その前の丸い物は朝、洗面の際の金盥、白扇の手前の棒状の物は煙管(きせる)である。煙管等というものは国鉄からJRになつて以来、廃語となつた感があるが、恐らく今の若い人は、(絵を描いてくれている元子さんも)知らない代物(しろもの)であろう。

さて歴史は年月が産み出すものであるが、その重みに耐えてズッシリと底光りするものと、流れに浮かぶ水泡(みなわ)のように消えてゆくものとある。今回、初代・上原さとの生まれ故郷、三重県上野市と更に豊表問屋・備後屋佐助「備佐」の在った大阪・長堀一带

を、写真を撮ってくれる吉岡輝昭さんと歩いた。私が大教会史執筆の命を頂いて取材に方々を廻つたのは、昭和四十六年から四十八年頃である。道友社勤務中だったので、大阪、上野は天理から近く何度も足を運んだ。今回の取材は、だから三十年余の時を隔ててのものだつた。驚いたのは、私の心の中で底光りしていた風景が、現実には三十年余の時に風化してしまつていたという事である。よく考えれば当然の事である。各地の美観地区ならいざ知らず、世間的には、名もなき市井の人のゆかりの地の面影を残しては、街そのものの経済的発展は望めない。だから初代の足跡を偲んで現地を訪れても、その現地はアスファルトと鉄筋のビル等に代表される近代的衣裳をまとして昔日の面影を温ねようがない。恐ろしいのは、ともすれば現地のその姿によつて、私の心の中に底光りしている初代の憶い出や風景が破壊されて

しまいそうになる事であつた。信仰は元一日に心を常に還し襟を正す事が大切であり、今回のこの企画は、年祭を前に私の心を正したい、更には言えば笠岡に繋がる人々の心の正し方の一助にでもなればとの想いがなきにしもあらずであつたが、今回の取材を通して、私はその元一日に心を還す事の容易でない事に改めて気づかせて頂いた。

何か信仰談義になつたようであるが、今回の表紙絵に戻る。

笠岡大教会初代会長・上原さとは千八百五十一年、嘉永四年一月十六日三重県阿山郡上野町西町五十八番屋敷に、父・川合清兵衛、母・婦みの四女として誕生した。三人の兄、三人の姉七人兄弟姉妹の末子だつた。

先日上野市は広域合併で伊賀市となつた。このあたりにも言葉による検索が困難となり、昔日の風景に近づく道の狭まりを感じる。

大教会史の文章に従えば、川合

家は「屋号を前澤屋と称し、前澤(屋清兵衛を略して「前清」と言え)ば、上野の町内は勿論の事、近在で知らぬ者はなかつた。上野の藩主・藤堂家の御用商人、御用達で相当の資産家であつた。」

生まれて七夜の命名式の時、祝いの膳の鮑(あわび)から数個の真珠が出た。この時、前清の旦那寺(念仏寺)の僧が来て感心し、「この子は後世、名を挙げる人になる。大事に育てなさい。」と言つた。

旧上野市街には寺町がある。上野城の南東の方角に在り街並は静かで美しい。念仏寺はこの寺町の南端に在る。本堂の木造阿弥陀如来坐像は重要文化財であり、百態観音を安置する六角堂や鐘楼等観る所は多い。由緒ある寺である。伊賀越仇討で荒木又右衛門の従者だつた河合武右衛門の墓所でもある。初代の生家・川合家の墓所は、この念仏寺の一角にある。

(史料部長 上原 繁 道)

青年会 笠岡分会総会

日頃は、青年会活動にお力合わせ頂き、誠にありがとうございます。5月22日には、青年会笠岡分会総会を無事終えさせて頂きました。当日には、お忙しい中、総会の為にお時間をつくって頂き、参加人数総計百六十六名の方にご参加頂き誠にありがとうございました。

当日は、足場の悪い天候ではありませんでしたが会員の皆様の大きな唱和により、陽気に十二下りのおつとめ学びをつとめさせて頂き、一つとなった姿を大教会長様をはじめ皆様方に喜んで頂きました。

続いて、式典に入り、青年会長様の御告辞を頂き、私達が歩ませて頂く指針をさらに示して頂きました。教祖の年祭に向かって、あらきとよりよくとしての使命を担って、「別席者増加」に歩み、一手一つに力を合わせ、勇んで会活動を進めさせて頂きます。又、大教会長様には、あらきとよりよくとしての役割を分かりやすくご説明頂きました。

続いて昼食後、予定では大門までの神名流流しましたが、雨天の為、神殿廻りの回廊ふきに変更さ

せて頂きました。回廊ふきではありませんでしたが、神名流し同様によろづよ八首を唱和させて頂き、大きな声が大教会中に響きわたりましたのは、皆様が一歩一つになった姿ではないでしょうか。形は変わっても心一つにして神名をたたえさせて頂いた事は、親神様、教祖にもお喜び頂けた事と思えます。

以上をもって総会を終えさせて頂きました。当日は雨天でしたが、そのまま神名流しをさせて頂く思いでありましたが、雨も強くなり、神名流し同様の行いを、私自身思案に迷い、大教会長様、奥様にお伺いしたところ、回廊ふきで神名を流したらどうかと、お声を頂き、急な事ではごさいましたがすぐに奥様のお力添えで、雑巾を手配して頂き、温かくお見守り下さいました。

紙面上ではございますが、皆様方のお力添えを頂き、青年会笠岡分会総会を無事終えさせて頂きました事を心よりお礼申し上げます。

(青年会委員長 浅野明教)



心をひとつに

青年会委員 田淵忠明

(上備分教会)

五月二十二日午前十時より大教会で青年会笠岡分会総会が行われました。今年は教祖百二十年祭の節目の年であり、我々青年会員は心を一つに揃えて総会を盛り上げて行こうという決意で臨ませて頂く事が委員の総意でした。

今期より青年会の委員をつとめさせて頂くことになった私にとって、委員として初めて迎える大きな行事というだけでなく、青年会総会自体も初めての参加です。そのため、右も左も分からない様な、不安な気持ちで準備に取り掛かりました。

前日からの準備の中で、委員を始め皆でこの総会を素晴らしいものにしたという気持ちが一つになっていく実感がありました。また、総会が始まって暫くすると、ある先生が以前おっしゃった、「親神様にもたれて通らせて頂けば心配するようなことは何もない」という言葉を思い出し、私の不安な気持ちも消えて、程よい緊張感という充実した気持ちで臨むことができました。

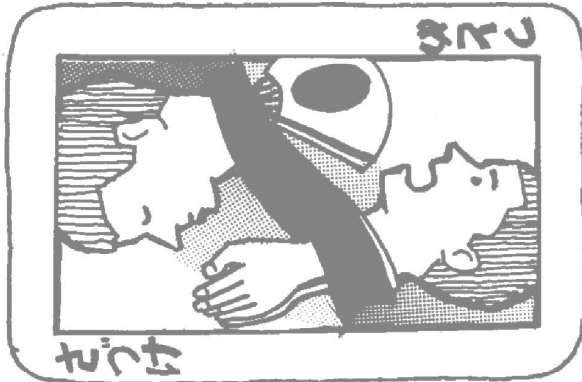
総会は大事なく進行して行き、おつとめをする順番になり上段が上がった時に初めて気がつきましたが、青年会員の皆さんが唱和する声がまさに

音の塊のように聞こえてきて、その時に心が一つに揃っていると実感できました。

式典も、個人の細かい失敗はあったものの周囲の人たちの助けもあり、概ね予定していた時間通りに終わることができ、ホッと胸を撫で下ろしました。午後に予定していた神名流しは、朝からの雨で回廊拭きのひのきしんとなりましたが、よろづよ八首を唱和しながら気持ちよくつとめさせて頂きました。

青年会総会を終えて思わせて頂くのは、大教会長様のお言葉にもありましたように、私たち青年会員は青年会活動を盛り上げるとともに、次期、次代へと繋いで行かなければならないという責任もあります。総会を終えたからといって気を緩めず、これからが真価を問われるものという気が引き締まる思いです。

初めての青年会総会を通して、青年会員は、委員はこうあるべき、とは分かったとは言えませんが、今回つとめさせて頂いたより以上に、親神様、教祖に御満足して頂けるよう、委員の心をひとつにしてつとめさせて頂こうと思えます。



イメージチェンジ

青年会委員 山田英嗣

(甲井分教会)

今年から青年会笠岡分会の委員にならせて頂きましたが、最初は「絶対にやりたくない」というのが本音でした。一月二十日の初めて参加させて頂いた例会の席上でも他の委員に言いました「が、青年会という言葉は聞いただけで、飲んだくれのムサくるしい男の集まり」というイメージしかなかったのです。しかし例会に出席して、それも一回目で、一気に青年会に対する私のイメージが180度変化していきま

した。

そして四月十七日、新委員会発足の結束団参として、十三峠越えをさせて頂きました。お互い肩を組んで、たすけあい、まさに結束にふさわしい十三峠越えでした。神殿が見え、全員横一列になって境内地に入った瞬間、身体の中がアツクなつたのを、今でもハッキリと覚えています。無事に歩き終えた御礼と、やむを得ず参加出来なかった委員の

ことを思いながら、全員でおつとめをつとめました。本当に笠岡分会の一員で良かったと心から思いました。

いよいよ青年会総会が近付いてきた直前の例会では、空気の張りつめた中で夜遅くまで色々と議論しました。そして、総会の日に行く神名流しのコースを下見しようということになりました。深夜0時近くに暗闇の国道沿いの道を歩きながら気付いたのは、笠岡分会を本当に甘く見ていた“ということでした。歴代の青年会の諸先輩方には大変申し訳なく思いますが、ようやくこの時気付くことが出来ました。

もうひとつ、余談にはなりますが、新委員全員でハッピーの帯を刺繍入りで揃えることになり、例会日に届いたばかりの真新しい帯を手にした時に自分の帯の刺繍が未完成の状態である事に気が付きました。その場では笑い話にしましたが私なりに思案させて頂き、私自身がまだまだ未完成なのだから、この青年会活動を通じて少しでも心の完成をさせて頂こうと、また、刺繍の文字は欠けていましたが、青年会例会には欠かさず参加し、一生懸命努めさせて頂き、一歩ずつでも成人させて頂きたいと思えます。

最後になりますが、どうか皆様今後とも、青年会笠岡分会に御協力と御理解の程、宜しくお願致します。

第2回ひまわり大会



六月三日、爽やかなお天気にも恵まれ、会員四十名と、婦人会、青年会、子供たちを合わせて、四十名余りの方々が、平日にもかかわらず、遠近をとわずご参加下さり、又、お力添えを頂き、第二回、ひまわり大会をつとめさせて頂くことができました。

午後一時より、支部長様のお手に合わせ、親神

様、教祖、霊様を礼拝し、続いて、支部長様より「教祖に喜んで頂けるよう、あらゆる立場にふさわしい人になって下さい」と、お話し頂きました。

次に、「教祖を身近に感じる時」を、テーマに、三名の方の感話がありました。

最初の方は布教の家に行かれた方で、人様の為に苦労させて頂かねばと言う、体験話をして下さいました。

二人目の方は、自分が母のお腹にいた時、母がおびやゆるしを頂き色々な事情の中、教祖にもたれ切って通られ不思議な安産のご守護をいただいた話をして下さいました。

三人目の方は、入り込みの方をお与え頂き、その方を通して、日々を、陽気ぐらしの心で、励んでいるお話を聞かして頂きました。

その後、高屋分教会長様の講話を聞かせて頂きました。

会長様は、女性の徳分である「育て」という上からと、又、私達にとって、大切な「女らしさ」について、会員にわかりやすくお話しして下さいました。

今後、みんなで力を合わせ、回を重ねて、成長させて頂きたいと願っていますので、これからも、みなさま方のお導きとお力添えを頂きますよう、よろしくお願いたします。

(ひまわり会担当者 高木孝子)

ひまわりの種

興明分教会 吉岡きわ

この春から6年ぶりに県外から岡山に帰ってきたこともあり、義姉から「ひまわり大会があるけど、どんなかな。」と声をかけてもらいました。その時は軽い気持ちで「いいよ。」と受けたのですが、日にちが近付くにつれ、娘の幼稚園で忙しかったり、小学生の息子たちの帰宅後のこと、そして前の週に私が体調を崩し寝込むなどかなり私の中で「何で平日にあるんだろう？」と疑問がふくらんできました。

当日、午前中幼稚園の付き添いを終え、急いで大教会の方へ向いました。

受付でプログラムをもらい中を見ると「ひまわりの種」が入っていました。この時、このパンフレットを作られた人のことを思いました。たぶん家のこともあり、子供のことも、もしかしたら教会のこともあるかもしれない。その中で作られたのかと思うと、来させてもらうだけの私がいすれた考えを持っていたなあと反省しました。

講話もとても心にひびくお話をして下さい、今すぐからでも気を付けようと思いました。

そして託児の方へお迎えに行くと、その託児のためだけに遠方から来られていたり目に見えない

部分でたくさんの方に支えられていたのです。その流れが私の中でわかり始めたら帰りに原稿依頼があり、自分の気持ちを读まれているようにドキッとしました。もっともっと初心に帰るつもりで何事も通らせてもらわないといけないなど、心に刻む出来事でした。家に帰り、プログラムに入っていた「ひまわりの種」をさっそく植えました。3粒だったけど、芽が出ればそれ以上のたくさんの意味を持つ「ひまわり」となりそうです。



晴天の下で

福東分教会 藤井 乃理世

去る六月三日、大教会に於いて第二回ひまわり大会が開催されました。午後一時より支部長様を芯に鳴り物を入れ、よろづよ八首を総立ちでつとめさせて頂きました。支部長様の隣りでおてふりをさせて頂けるといふ又とない機会に恵まれた事、とても勿体なく有難く思っています。

支部長様の祝辞では親心溢れる温かいお言葉をおかけ頂き、その後の三名の方々の感話ではそれぞれの持ち場、立ち場で日々思っている事を上手に話され、常に親神様、教祖を身近に感じながら毎日を送っているのだという事が伝わり私も頑張らねば、と感化されました。

続いて高屋分教会長様の講話では、会長就任以来、会長として母としての自問自答の日々、そして今やはり神様第一で間違いないという事を話され、こちらも何度か目頭を熱くしながら聞かせて頂きました。中でも、実家のお父さんが「男の會長のようにならなくて良い。女の會長になるように」との話しに、たとえばどんな立場であっても女性には女性らしさ、低い心、つなぎの心を忘れてはいけないのだという道の台としての通り方を教えて頂いたように思います。



終了後、支部長様に御礼の挨拶に伺うと、「集いではなく大会としたのだから第三回、第四回：第十回と続けるように。多人数の年もあれば少数の年もあるだろうが心倒さず続ける事が大切」とお話し頂きました。どんな事でも続けるとは難しく努力が必要なのは勿論、その上で、後押しして下さる方々のお陰で勇ましてもらえます。そこに感謝できる心の方が大切なのかなと感じました。最後になりましたが、ひまわりの種のような元気な子ども達の世話を始め、折々でお力添えを頂きました婦人会の奥様方、本当に有難うございました。

「女らしさ」を忘れずに

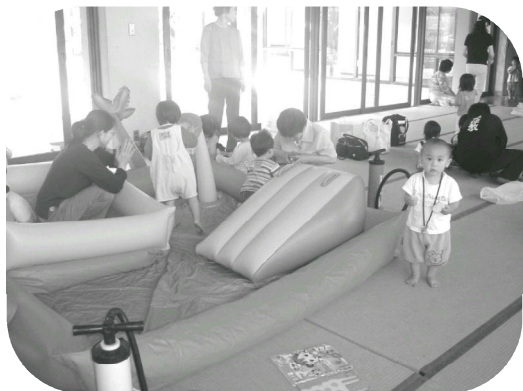
多古浦分教会 品川 旬 記

先日、第二回目となりました「ひまわり大会」に参加させて頂きました。大教会へは少々遠方という事もあり仕事におたすけに忙しく走り回っている母に家事、子供達を任せて出掛けさせて頂くのは申し訳なく参加を迷っておりました。ですがその母に「毎月はなかなか運べないのだから良い機会を逃さず心配しないで行ってきなさい」と言葉を受けて、ありがたいなという気持ちで行かせて頂きました。



当日は暑いぐらいの晴天の中、私達は大会での昼食を終え開会に挑みました。神殿はとてもさわやかでしたが、会員の皆様の熱気をひしひしと感じながらよろよろ八首を踊らせて頂きました。続いての支部長様の御祝辞では気の引き締まる思いで聞かせて頂き、会員三名の方の感話へと進行しました。その一つに近頃結婚、秋には出産予定の方で「私は今幸せいっぱいです。」と言われた言葉がとても印象に残りました。私は結婚七年程になりますが、子育てに追われ主人や子供に対する思いやりが欠けている事に気付かされました。初心に還り、今を喜びたいと思います。又一つには出産に関わるお話でしたが妊婦でありながら親神様にもたれきって通られた日々。子供の身上はまず病院へ……。私は自分を恥じました。親神様にもたれきる心、真実の心一つですばらしい御守護が頂ける、その心でおたすけさせて頂く大切さを改めて思いました。

最後に武内正美奥様の御講話を頂戴し、胸がいっぱいになりました。嫁いで来られてからのご苦労や大変な道中を思い、言葉では表現できない熱いものがこみあげました。が、そんな中にも時折見せられる(失礼ですが)かわいらしいしぐさに私はホッと、笑いがあふれとても感動し、ここに「女らしさ」を感じました。お話の中で、前会長様の御身上を通して「他にはない私達は、おさ



づげと言う大切なものを神様から与えられている、これを心の拠り所とさせて頂けるこんなすばらしい事はない。」とのお言葉に目が醒めた気がします。今は会長様のお立場ですが、女性として母としてのお立場を忘れず、とても美しく輝いておられる奥様はステキだと思えます。女は台、成ってくる事を喜び、広く温かい心で、そして「女らしく」日々通らせて頂けるよう努めて行きたいです。この会を通していろいろ勉強させて頂きました。にいがけおたすけが苦手な私ですが、一二年祭に向けて少しでも人様のお役に立てるよう心掛けて行きたいと思えます。いただいたひまわりのタネを来年倍にして大教会へ運ばせていただきたいものです。

青年会 別席・伏込ひのきしん団参

五月二十二日に笠岡分会総会を無事に終えさせて頂き、教祖百二十年祭青年会目標「別席者増加」に向けて、笠岡分会でも六月五日に別席ひのきしん団参を開催させて頂きました。総会が終わってすぐの行事でもあり、各教会でも行事等がある中、参加総数五十名内別席者二名のご守護を頂きました。

前日の夜に、それぞれ仕事を終え、又教会のご用をすませ遅くにおちばに帰らせて頂き、詰所にて各分会で親睦をふかめ、一夜をすごさせて頂きました。

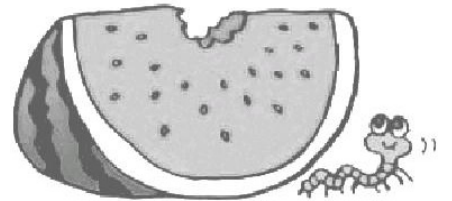
午前七時半、詰所玄関前にて集合し、主任先生のお話を頂き、ひのきしん現場へと出発させて頂きました。

毎年恒例になってはおりますが、教祖百二十年祭に向けて、六年前より心定めをして、こどもおちばがえり準備のひのきしんをさせて頂いております。今年は全員少年会のフロートで午前午後とひのきしんをさせて頂きました。内容は旗を水拭きさせて頂き、たくさん枚数がありました、皆さん楽しく勇んで拭いて下さる姿が見られ、こ

のおちばで、親神様のお膝元でひのきしんをさせて頂く喜びを各自心の中で感じさせて頂いたのではないのでしょうか。

この度の団参には、老若男女を問わずと掲げて開催させて頂きました。その中で、教会ぐるみ、家族ぐるみでご参加頂きまして、誠にありがとうございました。

(青年会委員長 浅野明教)



別席・ひのきしん団参

青年会委員 杉原善朗

(明石市分教会)

「そういえば丁度一年前の確か今ぐらいの時期、参加したよなあ」と、この行事の話を聞いて思いました。去年のひのきしん内容を詳しくは覚えていませんが、夏のこどもおちばがえりの準備の手伝いで、楽しくひのきしんさせていただいた様に記憶しています。

そして、去年一緒に参加した子がこの六月から修養科という事で、急に詰所に顔を出してビックリさせたらおもしろそうだなという思いもあり、話

を聞いてすぐに行かせていただく事にしました。前日夕食後、電車でおちばに向かい、天理駅に着いたのは十時前でした。そのまま御本部参拝しました。体が疲れていたのが教祖殿、祖霊殿には廻らなかつたのですが、僕は深夜の教祖殿が大好きです。昼間の教祖殿には温かい雰囲気を感じるのですが、深夜には月明かりのせいもあってか何か優しく包みこまれる様な心地良さを感じ、心が素直になれる気がするのです。この文章を書いていたら、今、深夜の教祖殿に行きたくなってしまいました、その日も行っておけば良かったなと今更思います。近い内行こうと思います。

五日になり、ひのきしんは何かな?と書いていたのですが、午前は別席の付き添いをする事になり、午後の一時間がひのきしんになりました。内容はビニール・シートのような物に付着しているホコリ等の汚れをゾウキンで拭いていく事で、炎天下でのこの作業は思ったより大変なものでしたが、コレもひのきしん、こどもおちばがえりの準備と思いい、勇んでさせて頂きました。夏のおちばがえりのどこかでそのシートが使われるのだと思うと夏が楽しみです。またひのきしんを通じて新たな仲間ができるというのはありがたい事だなあと再認識しました。

来年もぜひ参加させていただこうと思える楽しい行事となりました。

どんな中でも

青年会副委員長 森本 正典

(海松ヶ岡分教会)

去る5月22日に盛大に行われた笠岡分会青年会総会の後片づけの最中、浅野委員長から「正典さん、次の6月5日のだんだん早急につめましょう」と呼び止められ、元氣よく「わかりました!!」と応える私。胸中は(それどころの状態ではないですよ)と、叫びたいばかり。総会終了後、ただちに委員会全員が会室へと集合した。

「このたびの準備や、片付けでかなり疲れがたまっていると思いますが、6月5日に向けて今日よりラストスパートをするが如くに、各ブロックの呼びかけ、よろしく願います」と、委員長の熱い言葉に、皆、疲れているにもかかわらずハイ!!と返事を返した。そして6月5日の別席ひのきしん団参の全体動員数すら把握出来ないまま6月4日を迎えた。

どんな中でもと、午後12:30、まず府中市ブロックの方が詰所へ到着した。次いで直轄ブロックの婦人会の方々及びOBの方々、そして、久松ブロックの婦人会女子青年、及びOBの方々、高屋ブロックOBの方々など、続々と詰所へ集結し始めた。母体である青年会員は、その日の勤務を

終え、大渋滞の中をおちばへと向かっていた。全員無事を確認できるまで待とうと、互いに窓の外を眺める。

最終便が到着したのは、翌、午前0:30ちょうどであった。皆、クタクタになりながらの到着、ひと風呂浴びてボタンと倒れるように眠りにつく者、よう来たなあと、肩をたたき合う者、言葉につまっている者……。私には、全てが本物にみえた。ならん中、ようよう、ここまで帰って来はったなあと、声が、聞こえてくるようで、胸が熱くなった。

あっという間に朝を迎え、互いに、しんどいけど頑張ろう、伏せ込んだら、伏せ込んだだけ!!と、声を掛け合いながら玄関前に集合した。詰所主任先生の励ましのお言葉に、拍車がわいた。ただちに、ひのきしん現場へと向かい、少年会の先生の感謝の言葉を頂いて、目をこすりながら作業に入る。始めはぎこちなかったが、各ブロックごとの会話がはずみかけた頃には、全員が一つになれたと確信しました。来てよかったという言葉を耳打ちされて、何とも言えない感動が胸に湧いていました。

天理教青年会笠岡分会には、こんなにもたくさんの本物の仲間がいる。皆それぞれ各一人が、責任を感じ、実動をもって伏せ込む精鋭たち。やむを得ず、参加できなかった方々を含め、皆さんにこの場をおかりして、お願いさせて下さい。

我々青年会笠岡分会は、親神様によるこんで頂

ける本物のあらしとすりようであり続けるべく、思い立ったら、即実践・即実動を目標に、前進していきたいと思っております。どうか皆さんが、より団結し、支え合いながら、行事参加の呼びかけを手伝っていただけたらと思います。この度の行事を盛大に盛り上げて頂き、支えて頂き、誠に、ありがとうございます。これからも、「やのめにかのふたものハにちくく」にだんく心いさむばかりや」を胸に、頑張って参りますので、よろしく願います。



実践項目集計 (4月)

百万軒にをいがけ	57,117軒
おさづけのお取次	4,350回
身上事情お願い	740件

実修会 便り



四国の海を越えて

明石市分教会長 杉原博之

5月15日、四国 稲讃分教会へ実修会の派遣となりました。実は最初から「え、明石から四国っ！しかも10時からだって？」という過程を経て派遣となったのです。時刻表で調べてみますとちゃんと間に合うんですね。知らなかった……。

いやあ、実は楽しみなんです。四国は29年前、新婚旅行に行ったところ、古き良き思い出、感慨に浸るのも悪くありません。思えばあの頃は家内は可愛かった…… 失礼。

岡山から、サンライナーに乗って妹尾、茶屋町と進み、児島から瀬戸大橋線に乗るのです。児島をスタートするとすぐトンネルに入ります。「これ、もしかして海の中を進んでいるんやろか？」と疑問。全く恥ずかしいことだが大勘違いをしていました。トンネルを抜けると大陸橋にかかりました。十二、三キロの渡海です。遙か下に青い海が見えます。遠く又近くに小島が散在し、小舟が

行き交っています。本当に絶景！夢中で携帯で写真を撮りました。何と逆光で皆、光って白っぽく映っている。残念やなあ。10分程の恍惚の時間を過ごせました。

坂出に着いて予讃線で丸亀まで行きます。遠くに讃岐富士が、見えます。後ろにいた観光客と地元の人のお話で知ったのです。高さが422m有との話し。青く霞んで三角形の美しい山だ。香川県で一番きれいな山だとの話が聞こえてくる。青く霞んだ山を見ていると心がスウーと晴れて「さあ、今日も頑張るぞ」という思いがみなぎってきた。そうやって自ら心を励ますのが僕流なのです。

丸亀から教会へ着きました。お道は有りがたいですね。初めてお会いした方も一つの笑顔、挨拶で心がすぐ一つになる。「朋有り遠方より来たる、また楽しからずや」親神様、教祖を仰ぎその用木として働かんとする志を同じくする道の兄弟姉妹との思いが溢れて下さるのでしょうか。

又、会長様、奥様に加えて参加の皆様が、全員教人と、成人の道を進まれている。10時からをいがけのお話しをさせて頂き、その後12時まで休憩なしの練り合いを行いました。聞かせて頂きますその中に、大きな節を乗り越えようと精一杯前を見つめて進まれているとお話し、お話し……。お道なればこそその「たんのう」の心を真摯に学ばせて頂きました。

失礼をする際には、教会玄関に皆様お出下ってお見送り下さいますお心配りには誠に勿体ない申し訳ないことでした。

稲讃分教会の会長様、奥様、皆々様、誠に有り難うございました。実修会を島根に、岐阜。広島。の神辺町、八尋町、府中市。そして四国。親しき朋の輪が広がって要員は有り難いなあ。

をやの思いに素直に添い切る

亀田山分教会長 高橋 徳 行

朝からぐずついた空模様の中、松江の地を出発。目指すはこの度、をいがけ。おたすけ実修会の派遣要員として、出向先の御命を頂いた芦常分教会。山陰から山陽までの通い慣れた山越えですが、やはり雨降りの中、地図を頼りにどうにか予定時刻に到着。有難い事に、当地に着いた頃にはお天気も回復し、薄日も差してきて、絶好ののをいがけ日和となっております。神殿参拝の後、お集まり頂いた方々を前に、自らのささやかな布教体験を交えてのお話をさせて頂き、その後、二つのグループに分かれてのをいがけに出発。初めて訪れた地でもあり、案内されるままに戸別訪問に歩かせてもらいました。山間地域で、家と家の距離もかなりあり、数をこなすというよりも、コツコツとひとつ々のお宅を声を掛けながら丁寧

まわるといふ、布教活動本来の姿で、にをいがけをさせて頂いたような気が致します。参加された方々、皆熱心で、普段から常時活動としての、にをいがけが定着しておられるのだなあと感じ入りました。

帰会后、お茶を頂きながら練り合い。今年は教祖年祭活動仕上げの年に当たり、笠岡全部内、どうでも初席者一人以上のお与えを頂く、との声掛けを頂いておる最中、こちらの教会はもう既に八名からの方が初席を運ばれたとの事。驚きと共に、先の講話で偉そうな事を申し上げたのがはずかしくなり、それこそ、穴があつたら入りたい心境でした。

論達を通し、にをいがけ・おたすけの大切さを説き、実動を急き込まれている真柱様のお心を教会活動に反映され、会長様、奥様を忝に、つながる方々が、勇んで御用に励んでおられる姿に会わせて頂き、今回の実修会も大いに勉強させて頂いたように思います。派遣要員として届かなかった点、お詫びと反省をさせて頂きつゝ、我が教会に於いても、この旬の動きに遅れぬよう、実動の上に、更なる前進をはからせて頂き、派手さは無くとも地道な活動を続けていきたいものと、思いを新たにさせて頂いた次第でございます。誠に有難うございました。

談話室



出合い その一

神村分教会前会長 下田輝夫

大教会前会長様が集会員をされていた頃、同じ集会員で青森教区から出て居られた山名部属弘前分教会長様から教会移転建築をしているので備後畳表を世話してほしいと頼まれているが前何とかならんかと云われ、畳表を世話させて頂いた御縁で、弘前分教会会長岩崎寿男先生との出合いが生まれました。

弘前分教会は明治二十八年の設立で青森教区では一番古く、部内二十カ所、建物の老朽化で普請せざるを得ないとの事でした。

岩崎先生は病弱で床についている方が多いと云われるが、お地場でお会いする時はいつもこやかに明るく接して下さるので、私には病弱とは思えないお方である。

信仰的に色々御教導頂き、今迄だけだけ心の活力を与えて頂いたか計り知れないものがある。私にとりましては実に得難い道の師である。人の

出合いとは実に不思議なものであり、又有難いものである。畳表のお陰で素晴らしい先生との出合いを与えて頂いたのである。

すでに前会長となられているが、山名詰所のふしん委員長として十年の長きに亘り、立派な母屋二棟を完成された。皇居の新宮殿を設計された方とつながりがあって、自教会の上段の天井は新宮殿と同じに、又詰所の屋根も一棟は新宮殿の屋根を模したとの事である。山名部内四百余カ所からの帰参者に少しでも満足して貰えるよう色々心を尽くされた事は云うまでもない。

大教会筆頭役員となられて十年近くなり、本来なれば私如き者はとてもお側に寄りつけないと思いますが、先生にはそんな雰囲気はどこにもなく、いつもにこやかに優しく接して下さい、威張るような気持ちは微塵も感じられないのである。教祖のひながたを常に心に求めてお通りになつていらっしゃるお姿は、多くの人々から尊敬され信頼されるのも当然である。先生のお姿を見る時教祖をとても身近に感ずるのである。

一昨年秋奥様が出直されましたが、出直される前に今度出直しても又一緒になるのを楽しむと云われ、ニッコリ笑って眠りに入られそのまゝ静かに息を引取られたとの事で、喪中のハガキでなく出直しの素晴らしさと生かされている喜びと感謝の言葉を述べての年賀状を頂き、お道の者は斯

くあるべきと熱い感動をおぼえた次第である。又先日頂いた手紙では去る五月五日桜の満開の中、創立百十周年記念決起大会を開催、参拝者四五〇名その中でおつとめ奉仕者十八〇名七交替で十二下りをつとめ参拝者も総立ちでおてふりをつとめ、教会も移転して四十年になり神苑も貫禄がついたと、教会機関誌弘前の大会特集号を頂き、あれから早や四十年になるのかと、月日の立つ早さに驚いて居ります。

岩崎先生は大正七年生れの八十七才と聞きました。最近はとて御元氣である。いつくまでも御壮健で今後共一層の御指導御鞭撻を賜りたいものと念ずる次第である。岩崎先生本当に有難うございます。

会長の理のお許しを載いて

坪生分教会長 掛谷宣和

再三原稿依頼を受けながら今月の投稿となりました。過ぐる三月二十六日坪生分教会五代会長の理のお許しを戴き、四月三日就任奉告祭を、そして五月二十七日・二十八日と新任教会長の集いに出席させて頂きました。只々、親神様の御守護・教祖のお導きは申すまでもありませんが、親々の成らん中をお通り下さったお徳によって、今こうして教会長としてつとめさせて頂ける事を痛感致

しております。

三月二十六日緊張と不安の中無事お許しを戴き、届きませぬ乍ら会長として精一杯つとめさせて頂く決意を致しました。そして四月三日就任奉告祭をつとめさせて頂きました。天気予報では前日夜から当日は終日雨とのこと、大教会よりテントを借り準備をしましたが、ありがたいことに朝夜明けまで大雨でしたが、朝づとめをつとめる頃には雨も上がり、祭典中は時々日も差し、外での参拝者も屋外が苦でない暖かな日より、そして奉告祭・直会も終え、テントも畳んだその時から又大粒の雨と、本当にありがたい天氣の御守護を頂戴しました。又当日は大勢の方々が参拝下さいました、その中に全く信仰のない同じ町内会の方が二十数名参拝下さいました。これは一重に先代・先々代が常に町内の方々にも心を掛け、月々の祭典後にはお下がりを欠かさず届けて下さっております(今も変わらず届けて頂いております)。又直会の席では、高屋鼓笛隊の演奏。その演奏に合わせて上級高屋分教会の会長様の着物でのバトン・更に高屋きねづか鼓笛隊。ビビッドチビッドのダンス。更にはM分教会長の成りきり松平健。大盃の儀。そして妹とその子供達が所属する和太鼓チームと本当に大勢の方々が御祝いに駆けつけて下さり参拝して下さい方々も大いに喜んで下さいました。大変賑やかな奉告祭となりあ

りがたい限りでした。奉告祭を終えさせて頂いてふと我に返った時、親々の徳とそのつとめによって今日の奉告祭がつとめられたのだ。私には徳も何も無いこれからの私がつとめだという事を痛感致しました。

先月二十八日新任教会長の集いの後、真柱様の御招宴の席では、大教会長様が「私の在職中には二度とないであろう」と言われた、真柱様の真ん前の席に座らせて頂き、真柱様・奥様からありがたいお流れを戴きました。又その前々日は、第二専修科同窓会総会に於いて前真柱様より二回も握手をして頂くという、ありがたい勿体ない会長就任からの二ヶ月でした。

これからの教会長としての私のつとめです。親の声を頼りに、親の心に添いきり、親に喜んで頂けるようつとめさせて頂かねばと改めて思わせて頂く毎日です。ひいては、そうしてつとめる事が、坪生に繋がる信者さんの成人・更には理の栄えの御守護を頂けるものと思えます。

私の入信の動機

木津和分教会 丸山 伊津子

私は農家で男三人女四人の兄弟姉妹の四女として生れ育てられました。家の信仰は明治の末期より祖父母の代からでした。私は天理教が嫌いで神

様を余り拜んだことがあります。

ところが親神様より大きな身上を頂き、悩んでいるところが親神様より修養科を進められ、昭和二十五年の夏、十八才の時でした。食べる物もろくくしない時でしたが、皆な助け合って修養させて頂きました。三ヶ月間お話を聞かせて頂き、心一つで運命の切り替えが出来ることを知り、自分は駄目だと思っていた気持ちが生き返り、人を助けて我が身助かると聞かせて頂き、この道より外はないと悟らせて頂きました。二十六年秋には検定講習を受講させて頂きました。

二十七年の教祖七十年祭の打ち出しの年でした、一月十六日、木津和分教会え嫁がせて頂き、主人が二十三才、私が二十才でした。何にも分からない者が牛込大教会の部内の事情教会を引き受けさせて頂き、西も東も分らない所え縁付き、お道の通り方もよく分からないま、布教が始まりました。

結婚して一週間目よりハッピーを着て木津和を歩き廻りました。七十年祭で世界中が勇んでいる時でした。身上で病んで居られる宅え行くのにも、道が分からないので信者さんに案内して貰い、雪の中、長靴を履いて行ったのを未だに忘れることが出来ません。色々な身上の人のお助けをさせて頂き、助かって下さった人もあれば出直された人もあり、喜んだり悲しんだりの道中を、初代とし

て二十年間つとめさせて頂きましたが、事情により担任変更をさせて頂きました。

担任変更をしたからと云って気を許すことは出来ません。運命を切り替える為にはお道より外にはありませんので、百年祭の打ち出しの年に布教所を開設させて頂きました。

此の世の者でなかった私が、七十三年間お連れ通り頂けたのも親神様、教祖のお陰と感謝いたし、少しでも恩返しをさせて頂かねばと、届かぬ乍らも匂いがけお助けにと頑張って居りますが、徳のない者にはなかく初席者を授けて貰えません。自分一代は伏せ込みと思いい先を楽しみにつとめさせて頂いて居ります。

百二十年祭に向って一人の人にも助かって貰いたく、私自身心の成人をと思いい、毎日教会え日参をさせて頂き、ひのきしんとおつとめをすませ、帰りに病人さんのおたすけに廻って帰ります。何時まで続くか分りませんが、足腰立つ間は神様の用木としてつとめさせて頂き度く思っ居ります。寝ても醒めても病人さんのことばかりです。助け人として責任がありますから。いい加減なことはして居れません。

こうしてお道を通らせて貰えるのも先祖の徳があればこそと思いい、今では天理教を

信仰して良かったと先祖に御礼を申し上げて居ります。

病人さんに助かって貰うにはこちらが心を作るより外はありません。病人さんの身上は我が身上と思案させて頂きます。そうして運ばせて頂ければ、心苦しいばかりです。自分で徳積みをするこ



▼養徳社発行『陽気』誌六月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「仕」、選六十句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

天位

東悠分教会長夫人 田林美智子
紋服の仕立て上がりて就任を待つ

佳詠 芳井分教会長夫人 佐藤香苗

年祭ヘラストスパート仕切り句

▼奉告祭(平成14年)

東濱 十三雄

時流れ 親教会の代替わり

心清めて 福山めぐし

神殿に溢れる人の喜びを

神が受け取り 雨上りたる

慎重に贈る花束 光あり

ホッと受け取る 目にも光が

◆おやさとふしん 青年会一ヶ月ひのきしん隊 入隊案内

- * 第700回隊という記念すべき7月隊に、笠岡分会は一個班(約20名)の心定めをもって入隊準備をしています。
- * ただ今ひのきしん隊へ入隊出来る男子を大募集しています。
- * この120年祭目前のおちばへ、おやさとふしんという絶好の伏せ込みの場へ、ただひたすらに惜しめないひのきしんという真実の汗を、私達と共に伏せ込ませていただくことはありませんか?

- 【期 間】 7月1日～24日
- 【集 合】 笠岡詰所(6月30日)
- 【宿 舎】 第百母屋
- 【内 容】 ひのきしん、修練、においがけ、月次祭まなび、親睦会、等
- 【申込〆切】 6月20日
- 【入隊受付】 各ブロック青年会委員、もしくは所属の教会長様におたずね下さい。

天理教青年会笠岡分会 ひのきしん部

◆立教168年「こどもおちばがえり」

- 【期 間】 7月26日～8月4日(10日間)
- 【テ ー マ】 感謝 よろこび ひのきしん
- 【詰所行事】 ・模擬店 3回開催(7月28日、7月30日、8月1日)
- ・ビデオ上映(期間中毎日午後7時30分より 於 北棟2階修練室)
- ・クイズ(期間中詰所内の各階に張り出す。正解者の中から抽選で景品プレゼント)
- * 育成にあたる私たちが、おちばがえりの喜びをもって、しこみのポイントを念頭において、三つの約束を実行する姿を子供達に写し、勇んで道の後継者育成の御用をつとめさせていただきます。

◆修養科修了者の集い

- 【期 日】 8月21日(日)
- 【場 所】 笠岡大教会
- 【内 容】 修養科主任永尾隆徳先生の講話、修養科修了者の感話等
- * 尚昼食は弁当、飲物コーナーを用意しております。

◆少年会 夏季練成会(サマーキャンプ)

- 【と き】 8月22日(月)～8月24日(水)
- 【と ころ】 海辺のキャンプ場
- 【内 容】 水泳、テント張り、料理コンテスト、野外ゲーム他
- 【対 象】 小学校3年生～中学校3年生、高校生はスタッフとして参加
- 【定 員】 50名
- 【参加お供】 3,000円(米2合と野菜1品)
- 【申し込み】 8月18日までに、各ブロックの委員に申し込んで下さい。

◆英語講習会

- 【期 間】 8月22日(月)午前10時受付～24日(水)午後2時ごろ解散
- 【受講対象】 中学1年生以上～高校、大学、一般
- 【受講御供】 2500円
- 【持 参 品】 英和・和英辞典、筆記具、着替え、洗面具
- 【プログラム】 少人数グループでの英会話、パソコンを使った英語学習、おつとめ、講話、ひのきしん、社会見学など
- 【お問合せ】 詳細は、スタッフの香取雅人(086-528-0850)、吉岡誠一郎(086-282-0550)(御連絡下されば、JR大門駅まで送迎いたします)

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいぢううハみなわが子かハいい、ばいこれが一ちょ」と親心一杯に自由の御守護を賜り日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有難い事と喜ばせて頂いております。その中でも今の季節は木々の緑が目鮮やかでまぶしく花は次々と咲き誇り虫や鳥達も嬉しそうに動き飛び回る様子を見ますと何かしら心に躍動感を覚える事が出来まことは本当に勿体ない極みでございます

私共は「かしまのかりもの」の有難さはもとよりこうした天然自然のお働きを通してお示し頂く親心の有難さをも感じさせて頂きつつ日々は朝夕に御礼申し上げると共に届かぬながらも御恩報じを念じてたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は五月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同明るく陽気に勇んで座りつとめてをどりをつとめさせて頂きます。御前には今日の日を榮しみに寄り集いました道の子供達がおつとめに真実を寄せ真剣につとめる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百二十年祭に向け三年千日と仕切つての成人の歩みも仕上げの年の中ばに差しかかっておりますが残念ながら世相は自爆テロや核開発等が進み益々混沌を深めております。そんな中道の子の上に身上や事情を通して大変厳しくお仕込みを頂いておりますのは当事者のみならずひとえに道の子全般特によぶづくに対する成人をお急ぎ込み下さっているものと悟らせて頂き改めて一人をたすける心の涵養と実践」を胸にしっかりと教祖ひながたをたどるべくたすけ一条の上に邁進させて頂く覚悟でございます。又病だすけや事情だすけに留まらず心救けに繋がるよう自らの理作り徳積みも励ませて頂く所存でございます

何卒親神様には旬にふさわしい成人を目指し精一杯に歩む皆の誠真実の心をお受取り下さいまして万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜ると共にたすけ一条の心を次々と人々に写して下さいまして親を慕う者が弥増し一列兄弟の理に目覚めて世界一列助け合う陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます

◆にをいがけ・おたすけ実修会要員研修会

【期 日】 期 日 8月28日(日)
 【場 所】 場 所 笠岡大教会
 【対 象】 対 象 実修会要員

◆青年会全分会布教推進週間

【期 間】 8月28日(日)～9月4日(日)

* 例年通り全分会にて布教推進の活動を計画していただきたいと存じます。120年祭仕上げの期間という事もあり、より一層、実動をもって歩ませていただきますよう。

尚、ブロック行事、キャラバン隊にての活動も展開していきますので、ぜひ御参加の方、宜しくお願い致します。

* 詳細については、下記担当者にお尋ね下さい。

平盛尚樹	084-963-1278	(福昭分教会)
山田睦浩・英嗣	08472-2-0254	(甲井分教会)
高島伸雄	0854-43-3705	(出雲分教会)

大教会だより

II 教会指令 II

◎神殿屋根葺替願

久 福 分教会

立教168年5月26日承認

◎第七六七期修養科

自 立教168年3月1日
至 立教168年5月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 中村 邦義

(大教会役員)

一ヶ月目 渡 邊 孝信

(神驛分教会長)

二ヶ月目 下 田 輝夫

(神村分教会前会長)

三ヶ月目 佐々木 滋郎

(福廣分教会長)

*修 了 者

上 下 押 尾 啓司

福 満 壇 上 康 男

芦加茂 小川 幸平

稲富土 須毛田 康弘

宇津戸 向 島 正敏

島 根 門 脇 とよ
福 満 檀 上 キクエ
芦 品 原 美 紀

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教168年6月14日終講

木津和 丸 山 哲子

◎本部直属ひのきしん

自 立教168年6月1日
至 立教168年6月20日

笠 岡 安 斉 和 美
引 野 谷 屋 賢 三



日本列島隅から隅まで、市町村合併の嵐が吹き荒れる中、我が町も例外ではない。岡山県真庭市となり、県下最大の広さをもつだけに問題も多い。合併に伴ない市長、市議ダブル選挙運動が連日賑やかだった。市長立候補二人、市議の議席四十席に対し立候補六十五人、その中新人の立候補はたったの三人、六十二人

は現である。いかに肩書が欲しいか、偉そうにしたいか、いかにメリットがあるか、金儲けがしたければ議員になれというのは本当のようだ。例えば、当選して議員任期中、なんにもせずにポーとしているだけで何十万円の手当が出る。そりゃやめられんはずだ。

今回の選挙に限り旧町村単位で投票が行なわれ、我が町の議席枠は五席、に対し十人が立候補した。選挙の告知から一週間、朝から晩まで十人の選挙カーがなり立てた。政治に対する理念も倫理もヘッタクレもあるか、連呼連呼又連呼、政策のセの字もあつたもんじゃない。マイクがガナリ立てる。「〇〇候補は頑張っております」、誰が頑張ってくれと云うた。「厳しい戦いしております」

当り前じゃろうが、人のせいにするな。猫のひたい程の谷間の町をぐるっと廻って、選挙事務所へ帰って来たたら、「無事元気で帰ってまいりました」、おめえ、イラクへ戦争に行つとったんか、アホ。選挙運動中、バッタの生れ変りの

如く、へこぺこ頭を下げていたのが当選したとたん、おめえらの世話になった覚えはねえ」とふんぞり返り、日本はわしの力で動かしたるんじゃという態度に変わる。落選した奴は、おめえらがわしに票をくれなんだけえ落ちたんじゃ」と、いわんばかりにいじけてしまう。

どっちにしろつける薬がねえ。救いようのない連中である。そんな連中にもつり事を委ねる市民はたまつたもんじゃない。

近年、上は国会議員から下は市町村議員に至るまで、本当の政治家が居るとは思えない。皆政治屋ではないか。肩書が欲しい、偉そうにした、人を見くだしたい、肩で風を切つて歩きたい。こんな塊の連中は、よくとこうまん以外なものでもない。投票に行くのがアホらしいが、行かねばならぬ、と出かけた。我が清き一票(？)を入れた候補が当選した。シラーとした。以上の話、わが町の出来事である。(か)世の中平和でアリマス。